

七回忌法要 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

有縁の人びと 相集い

恭しく尊前を荘厳し

懇ろに聖典を読誦して

法名 釈 の

七回忌法要を勤修し奉る

それ惟れば

我ら末代の凡夫

無明の黒闇に覆われて

出離生死の大道に昧く

愛憎の煩惱に沈みて

業障の苦海渡るに由なし

ここをもつて

阿弥陀如来は

超世の本願を發して

広く法蔵を開き

凡小を哀れんで

功德の宝を施し給う

「和讃」に言く

無明長夜の灯炬なり

智眼くらしとかなしむな

生死大海の船筏なり

罪障おもしろとなげかざれと

思えば

故人 大悲の願船に乗じて

彼岸の浄土へ渡り給いてより

はや六年の星霜を経たり

然りといえども

その遺徳によって 今日

この尊き法縁を恵み給う

希わくは

有縁の人々とともに

遙かに故人を偲びつ

現生には

本願を信樂して

念仏の大道を歩み

当来には

往生の素懷を遂げて

俱会一处の妙果を得んことを

伏して請う

一切三宝大悲を垂れて

哀愍納受し給え